



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

## 9. 「シャインマスカット」の満開後のフラスター液剤散布による副梢管理の省力化

### [要約]

「シャインマスカット」は、フラスター液剤1,000倍液を、満開10日後または40日後に新梢全体に散布処理すると、副梢の伸長が抑えられ、副梢管理を省力化することができ、果実品質にも大きな影響はない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

---

### [背景・ねらい]

「シャインマスカット」は副梢の発生が多く、旺盛に伸長しやすい。特に満開後の副梢の伸びが旺盛であると、果粒肥大が劣るため、副梢管理の徹底が求められる。そこで、新梢伸長の抑制に効果のあるフラスター液剤（一般名：メピコートクロリド液剤）の「シャインマスカット」への満開10日後及び満開40日後の1,000倍液散布処理の適用性を明らかにし、副梢切除にかかる時間及び果実品質への影響を検討する。

### [成果の内容・特徴]

1. 満開 10 日後のフラスター液剤 1,000 倍液の散布は、その後（満開後 19 日後から満開 40 日後の副梢の切返し時まで）の副梢の伸長抑制効果が高い（図 1）。
2. 副梢切返し（満開 44 日後）後の副梢の再伸長に対して、満開 10 日後または満開 40 日後のフラスター液剤 1,000 倍液散布は、いずれも伸長抑制効果が高い（図 2）。
3. 10a 当たりの副梢切除にかかる時間は、フラスター液剤 1,000 倍液の散布により、副梢切返し前までで約 10%、副梢切返し後で約 20%短縮される（図 3）。
4. 果房重、果粒重、糖度、酸含量は、いずれも処理区間に大きな差はない（表 1）。
5. 満開 10 日後及び満開 40 日後のフラスター液剤散布による、葉への葉害はない。また、満開 10 日後の散布による、果粒の汚れ及び果粉の溶脱はない（達観）。

### [成果の活用面・留意点]

1. フラスター液剤は、欧州系 2 倍体品種に対しては、着粒増加及び新梢伸長抑制を目的にして、新梢展開葉 7～11 枚時（開花始期まで）に、希釈倍数 1,000～2,000 倍で登録がある。
2. 平成 30 年 3 月及び平成 31 年 1 月に、品種「シャインマスカット」及び「ピオーネ」に対して、新梢伸長抑制を目的にして、満開後 10～40 日、希釈倍数 500 倍（150L/10a）及び 1,000 倍（300L/10a）、使用回数 2 回で適用拡大された。
3. 「ピオーネ」においても、「シャインマスカット」と同様の副梢伸長抑制効果が確認されている。
4. 満開 40 日後散布は果実に被袋した状態で行っており、無袋状態で散布した場合の果粒の汚れや果粉の溶脱については未検討である。
5. フラスター液剤は、成長点に作用するため、副梢切除直後の散布では効果が劣る可能性があり、できるだけ伸長中の副梢にかかるように散布する。



[具体的データ]

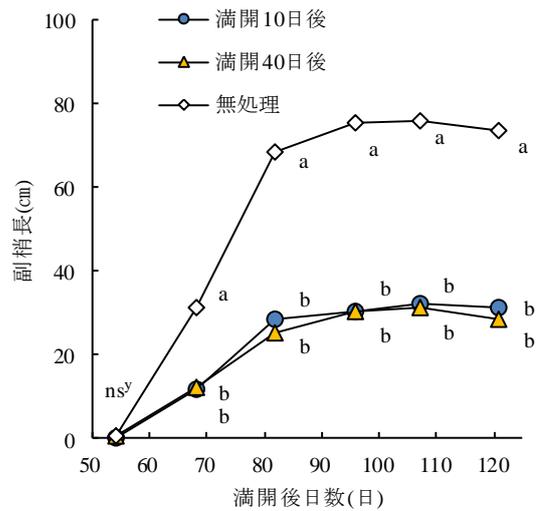
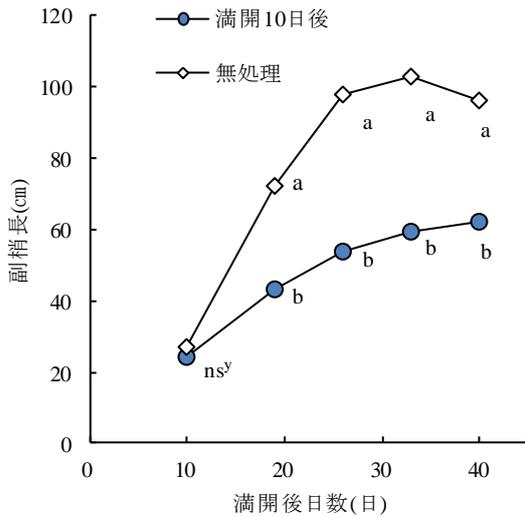


図1 フラスター液剤散布<sup>z</sup>による「シャインマスカット」の副梢長<sup>y</sup>への影響 (2015年)

図2 フラスター液剤散布<sup>z</sup>による「シャインマスカット」の切返し後の副梢長<sup>y</sup>への影響 (2015年)

<sup>z</sup>満開10日後区は、希釈倍数1,000倍、液量30L/a散布した。  
<sup>y</sup>新梢の中で最も長く伸びた副梢の長さ  
<sup>t</sup>検定により、1%水準で同一日の異符号間に有意差あり、nsは5%水準で有意差なし

<sup>z</sup>満開10日後区及び満開40日後区は、希釈倍数1,000倍、液量30L/aを散布した  
<sup>y</sup>新梢の中で最も長く伸びた副梢の長さ  
 Tukey法により、1%水準で同一日の異符号間に有意差あり、nsは5%水準で有意差なし

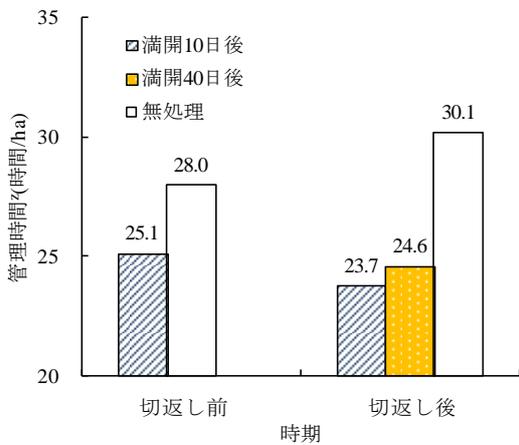


図3 フラスター液剤散布<sup>y</sup>が「シャインマスカット」の副梢管理時間<sup>z</sup>に及ぼす影響 (2016年)

<sup>z</sup>切返し前は満開25日後及び47日後、切返し後は満開62日後及び78日後の副梢管理作業時間の合計値  
<sup>y</sup>満開10日後区及び満開40日後区は、希釈倍数1,000倍液量30L/aを散布した

表1 フラスター液剤散布<sup>z</sup>が「シャインマスカット」の果実品質に及ぼす影響 (2015年)

処理区	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸含量 (g/100ml)
満開10日後	698	15.9	18.8	0.41
満開40日後	682	15.2	19.0	0.40
無処理	711	15.1	18.6	0.41
有意性 <sup>y</sup>	ns	ns	ns	-

<sup>z</sup>満開10日後区及び満開40日後区は、希釈倍数1,000倍、液量30L/aを散布した

<sup>y</sup>Tukey-Kramer法によりnsは5%水準で有意差なし

[その他]

研究課題名：満開後のフラスター散布が副梢伸長抑制及び果実品質に及ぼす影響

予算区分：受託

研究期間：2013～2016年度

研究担当者：平井一史、中島 譲、安井淑彦